

アゼムシロ【キキョウ科】

多年草。

湿地，田の畦などに地面をはって生育する。

むしろを敷いたように群生するので「あぜに敷いたむしろ」の意味からこの名がある。茎は細く，地面をはい節から枝がわかれて広がる。

長さ5～15 cm。葉は2列に互生し，披針形または楕円形でまばらにつく。長さ1～2 cm。6～9月に葉腋から細長い柄を伸ばし先に白色か紅紫色の花を付ける。

分布：全国

アゼナ【ゴマノハグサ科】

1年草。

水田，湿地や畦などに生育し，水田の広葉雑草の代表種の一つである。

幼苗の葉は楕円形で，先が尖り，無毛。茎は四角柱状で分枝して株になり高さ10～20 cm。

葉は対生し，卵状楕円形で葉柄がなく，長さ1.5～3 cm。全緑。

茎・葉ともに柔らかく無毛。8～10月に葉腋から花柄を伸ばし，先に紅紫色の小さな唇形の花を付ける。花後，楕円形の果実を

分布：全国

イボクサ（イボトリグサ）【ツユクサ科】

1年草。

沼や池の周辺，水路などに多く生育するが，畦畔から水田にもはいりこむ。幼苗の葉は，披針形で先が尖り，基部は筒形の葉鞘となって茎を包む。茎は円柱状で下部は横に広がって株になる。

葉は茎に2列につき，長さ3～6 cm，やや厚みがある。基部は筒形の葉鞘となる。8～10月に茎上部の葉腋から細い花茎を伸ばし，花卉3個の淡紅紫色の花をつける。

分布：全国

ウリカワ【オモダカ科】

多年草。

水田での発生量が多く、強害草の一つ。特に暖地に多い。主に塊茎から発生し、幼苗の葉は線形でコナギ、オモダカなどと似ている。大きくなると葉は厚みがあり、根元に叢生し、長さ8～15cm葉が5～7枚になると細長い地下茎を伸ばし先端に新しい株を作る。7～9月に花茎が伸び、白色の花がつく。夏～秋に地下茎の先に多数の塊茎をつくる。

分布：全国

オモダカ【オモダカ科】

多年草。

水田の難防除雑草の一つで溝や沼、池にも生息する。

水田では主に塊茎から発生し、葉は矢じりの形で30～60cmの長い葉柄がある。

8～10月に花茎が立ち、花弁3個の白色の花をつける。

秋に根を掘り上げてみると、先に塊茎が多数ついている。

塊茎は1株当たり50～150個でき、翌年これから発生する。

アギナシは株もとに小塊茎をつくるのでこの点で判別がつく。

分布：全国

タイヌビエ（ケイヌビエ）【イネ科】

1年草。

もっとも代表的な水田雑草で、発生量が多く稲に最も大きな被害を与える強害草である。

タイヌビエ、ケイヌビエ、イヌビエ、ヒメタイヌビエを総称して普通ノビエといているが、水田で一番多いのが本種のタイヌビエである。

タイヌビエは水深がかなり深くとも発生し、普通植しろかき後1週間前後ではえてくる。はじめ線形の葉が出て、やがて分けつして大きな株となり、イネよりも高く、高さ40～90cm。

茎は淡緑色で平滑、無毛。

葉の縁に細かい歯が密にありざらつく。葉舌はない。

7～9月に淡緑色の花穂を出し、多数の種子ができる。イネと非常に似ているが、イネには葉の基部に毛のような葉舌があるが、ノビエ類にはないので区別できる。

また、他のノビエ類とは穂および小穂の形で見分ける。

分布：全国

*小穂に長い紫褐色ののぎのあるものをケイヌビエとよび、タイヌビエと同様、水田に多く発生する。

ヒルムシロ【ヒルムシロ科】

多年草。

水田難防除雑草の一つで、池や沼にも群生する。

水田では鱗芽から発生する。地下茎が泥の中を伸び、ところどころから新しい芽を出しそれが新しい株になり、短期間に増殖し、田面一面に広がる。

葉は柄があり、楕円形で光沢がある。

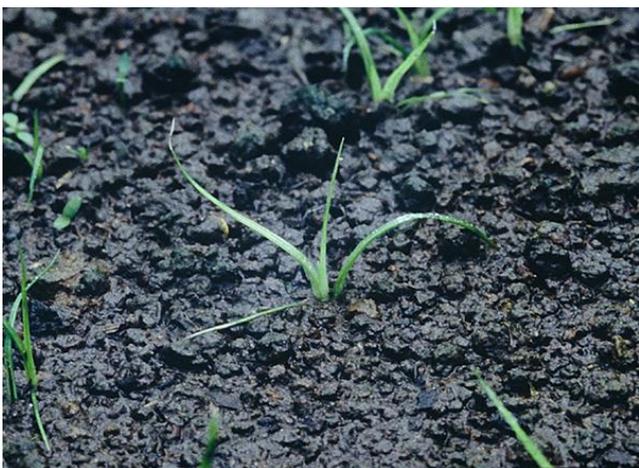
6～10月に花茎の先に穂状の花をつける。

秋に地下茎の先にバナナ形の鱗芽を多数つける。

これが翌年の発生源となる。

分布：全国

ホタルイ【カヤツリグサ科】



湿地にはえる普通種である。

種子は深い休眠性を持ち、冬から春に低温などで覚醒し15℃以上の湛水条件下で発芽する。近年、難防除雑草として分類され、土中での寿命は10～20年と長い。



地下茎は泥の表面で短く横に這う。多数の花茎を伸ばす。葉は花茎の基部の鞘となって、葉身は全く出ない。

花茎は真っすぐに立ち、断面は円形。ただしなめらかではなく、やや大きめの稜が並ぶので、多角形になる。高さは20～60cm、先端に2～3個の小穂をつける。穂の下からは1つの苞が伸びるが、むしろ花茎の延長のように見え、穂がその側面に出るといった方が分かりやすい形である。苞の先端は細くなってとがる。

果実は熟すると黒褐色になり、倒卵

形、断面はやや扁平な三角形。先端からは雌しべの花柱が出るが、果実が成熟するころには、その基部から脱落する。花柱の基部が幅広くなったりせず、素直に果実につながる。

分布：全国

ミズガヤツリ

多年草。沼や池，湿地などにも生育するが，水田多年草雑草の代表的なものである。

水田では主に塊茎から発芽する。

最初の株が発生するとその根もとから何本も地下茎が伸びその先に新しい芽ができ株になって短期間に一面に広がる。

茎は高さ50～100cm，3稜形で叢生する。

葉は広い線形で長さ50～60cm先は尖り，厚みと光沢があり，基部は鞘状で茎を包む。

7～8月に茎先に葉状の包葉を3～4個つけ，その中心から数本の花序の枝を広げる。花穂は赤褐色。秋に地下茎の先に多数の塊茎をつける。

分布：全国